

安平町ゼロカーボンシティ推進協議会（第6回） 議事録

会議名	安平町ゼロカーボンシティ推進協議会（第6回）
日時	令和7年3月25日
出席者 (敬称略)	【委員】 • 安平町 町長 及川 秀一郎 • 安平町 副町長 田中 一省 • 安平町 教育長 井内 聖 • 安平町商工会 会長 小林 正道 • 安平地区連合自治会 会長 佐々木 弘 • 早来地区自治会連合会 会長 山下 美樹 • 追分地区町内会連合会 会長 真保 立至 • 且見 暁 • 宮崎 晃行 【アドバイザー】 • 北海道大学大学院地球環境科学研究院 教授 山中 康裕 • 北海道地方環境事務所地域脱炭素創生室 再エネ促進区域推進専門官 川村 華・服部 夏（代理・WEB参加） • 北海道銀行 安平エリア統括早来支店長 山内 淳 • 北海道電力株式会社 道央南統括支社長 吉田 耕也 • 北海道電力ネットワーク株式会社 道央南統括支社長 黒須 僚子 【事務局】 • 安平町 税務住民課 参事 佐々木 智紀 • 安平町 税務住民課 課長補佐 畠山 津与志 • 安平町 税務住民課（ゼロカーボン推進員） 岸本 佳也 • エイコーエナジオ株式会社 事業アドバイザー 高島 誠太郎

	・ エイコーエナジオ株式会社 事業アドバイザー 中尾 敏夫 ・ 株式会社 DG ネットワーク 事業アドバイザー 北野 史人
配布資料	・ 安平町ゼロカーボンシティ推進協議会説明資料（第 6 回） ・ <別紙 1> 安平町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定事業説明（第 4 回） ・ 安平町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（案）の概要 ・ 安平町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（案）

1. 開会

安平町ゼロカーボンシティ推進協議会設置要綱第 6 条第 1 項の規定に基づき、及川町長が議長となった。

及川町長から挨拶が行われた。その中で、3 月 21 日に北海道電力株式会社と連携協定を結んだこと、株式会社エイコーの視察を行ったこと、早来学園の SDGs 学習で山中アドバイザーに授業を行っていただいたこと、昨年からスタートしているスマホ役場の中で、LINE でごみ分別アプリをスタートしたこと、ごみ分別ガイドブックを全面改訂し、外国語にも対応したこと、重点対策加速化事業への申請を行ったことが紹介された。

また設置要綱に第 6 条第 2 項の規定に基づいて本会が適正に開催されたことが説明された。

2. ゼロカーボン推進に向けた直近の状況共有について（報告）

事務局より、「安平町ゼロカーボンシティ推進協議会説明資料（第 6 回）」の 1～6 ページに基づいて報告が行われ、以下の補足・意見交換が行われた。

【補足・意見交換】

- ・ 環境教育の項目について、11 回の授業の内、早来学園に登壇したのは 3 回だが、コーディネーターの片山さんが毎回丁寧なビデオを送ってく

ださり、登壇した3回以外もあたかも自分も参加したかのようにコメントできた。頻繁に振り返りを行い、とても丁寧な授業を作ることができた。(アドバイザー)

- 将来の安平を担う子どもを対象とした授業であるので、経済活動のあらゆる場所でCO₂が発生するということを伝えた。安平町内で発生しても、遠い外国で発生しても地球全体では同じことという広い視点を作ってもらえるような設計にした。また、細かな数字を追いかけるのではなく、まず気づいてもらうことを重要視した設計にした。(アドバイザー)
- 最後に授業に関係してくれる大人と議論をする場面を作ったが、堂々と議論ができていた。(アドバイザー)
- SDGs 学習ということで、CO₂を減らすというだけではなく、いろんなSDGsの目標があって、それと結びついているということを体感として得られたのではないかと思う。(アドバイザー)
- 早来学園のSDGs 学習に参加した大人のアンケートの中で「子どもと意見を交わしながら学ぶという機会を新鮮に感じた」という声があったので、あびらワクワクセッションではそのような機会を設けるブースを出展した。(ゼロカーボン推進員)
- 4月からゼロカーボン推進グループを新設した。今後の事業の推移では職員の増員を検討していきたい。(議長)
- 安平町と北海道電力株式会社との間の連携協定について、3月21日に締結した。再生可能エネルギー、省エネルギー、エネルギー転換の3つが協定の柱となっている。(アドバイザー)
- 北海道電力はエネルギー事業者でありつつ、「共創」を経営の上位概念に置いており、エネルギーのみならずDXや教育についてもお手伝いをしながら、地域の発展を共に創っていきたいと考えている。(アドバイザー)
- 厚真町やむかわ町とも連携協定を締結しており、エリア全体の発展に向けて貢献していきたい。(アドバイザー)

- 震災を経験した町ならではの取組を期待したい。(議長)

3. 重点対策加速化事業の申請内容について

事務局より、「安平町ゼロカーボンシティ推進協議会説明資料(第6回)」の7~8ページに基づいて説明が行われ、以下の補足が行われた。

【補足】

- 7ページについて、除外となった2項目については、もう少し時間が必要だったり、重点対策加速化事業の補助金を活用しにくかったりしたため、除外となっている。しかしこれら項目についてもゼロカーボンに向けた全体の計画の中では今後進めていく。(議長)

4. 安平町地球温暖化対策実行計画(区域施策編)策定について

事務局より、「<別紙1>安平町地球温暖化対策実行計画(区域施策編)策定事業説明(第4回)」に基づいて説明が行われ、以下の補足が行われた。

【補足】

- 4ページについて、地域マイクログリッド構築目標の2箇所というのは、早来と追分の2箇所である。(議長)

続いて、安平町地球温暖化対策実行計画(区域施策編)について、全会一致で承認された。

5. その他

議長が委員並びにアドバイザーに意見を求めたところ、以下の意見交換が行われた。

【意見交換】

- SDGs 学習とワクワクセッションは良い取り組みであった。最近、EV 充電ステーションを使っている人も増えてきて、「あれは何?」と聞かれることも増えてきた。そのような時に詳しい人が正しいことを伝えてくれることが重要と思う。ゼロカーボンというと難しく感じると思うが、

町民目線で伝えてくれるこう言った取り組みがもっと増えてくると嬉しいと思う。(委員)

- 本協議会で承認された球温暖化対策実行計画については、粛々と進めていくことが重要であるが、目標となった数値の根拠自体が統計からの按分で求められたものであるので、「何%減らした」ということはあくまでも目安みたいなものとして気軽に捉えておく方が、使い勝手が良いと思う。実際の勝負所はここではなくて、安平町がどれだけ魅力的な町になるかということであり、脱炭素×何か、という視点を忘れないようにしていただくことが重要である。(アドバイザー)
- SDGs 学習に於いては、ファクトチェックが重要で、これについては私がその係をやって、子ども達には自由に議論をしてもらった。区域施策編の話の中で、札幌の人が自家用車で安平町に来た場合の CO2 をどこでカウントするか、という話があったが、SDGs 学習の中ではそう言った視点よりは、私たちが行なっている活動のどこかで CO2 が出ているというスコープ 3 の考え方が重要である。地球温暖化対策実行計画の中ではスコープ 3 までは求められないが、安平町を魅力的な地球に優しい町にするためにはスコープ 3 まで考慮に入れることが必要である。(アドバイザー)
- SDGs 学習の場に私も参加したが、私の娘の小学校の授業とは違いを感じた。生徒達がしっかり議論をしていて、こう言った教育が本当に大事なのだと感じた。(アドバイザー)
- 重点対策加速化事業については、規模も大きく、事業費の半分が補助金だが、半分は民間金融機関から調達が必要なので、我々の方でそこをきちっと精査していきたい。(アドバイザー)
- SDGs 学習の場に私も参加したが、ゼロカーボンについて子ども達が自分事として捉えていて、逆に勇気をもらった。良い取り組みだと思う。(アドバイザー)
- 重点対策加速化事業における 100%再生可能エネルギー地産地消につ

いては、地域新電力ビジネスだけでは20年以上続けることが難しい事例を他で見たことがある。これについては、手法論としてお手伝いできることがあると思うので、実際に事業が動く際にはご協力申し上げたい。スコープ3については、苫小牧市の民間企業の検討チームに入ったりしているので、安平町で取り組む際には協力できると思う。(アドバイザー)

- 時間軸を考慮したことだと思うが、論点を絞って取組を進めるのは良いことだと思う。公共施設の再生可能エネルギー100%についても、技術的な課題やスケジュール感を共有しながら進めていただきたい。制度の変更などもあるので、毎年自治体向けの説明会なども行なっている。(アドバイザー)
- SDGs学習の場に私も参加した。将来を担う子ども達が町について知り、愛着を形成する良い機会だと思うし、大人にとっても考えさせられる機会だった。(アドバイザー)
- SDGs学習については、子ども達の中では難しいものもあったかもしれないが、触れ、理解しようとする機会が大事であると考えている。一方的に講義を聞いて暗記するのではなく、自分事として考える機会であり、家に帰って「こんなことを聞いた」のではなく「こんなことを話した」と言える良い授業だったと思う。(委員)
- 子どもの目線で言うと、「将来を担う」と期待されると、今の世の中を今の大人がなんで変えてくれないの？と疑問に思う。自分の娘にも言われたことがあり、私も自戒としてしっかりやっていかなければならないと思う。(委員)
- 重点対策加速化事業への申請については、従前より安平町から相談を受けており、申請に至って良かったと思う。審査状況については我々もわからないところがあるが、今後審査のフローが進んでいくことになる。区域施策編も、本協議会で決定となって良かったと思う。今後も環境省の行う事業において、協力していきたい。(アドバイザー)

- 石川委員は安平町から転出することになったので、次回の協議会までに後任の方を探す予定である。女性の方に委員をお願いできればと考えている。事務局の体制については、4月に人事異動があるため、政策推進課長の渡邊の後任としてまちづくり推進担当課長の山口が入る。(議長)
- 農地の話で垂直型の太陽光パネルを鹿対策のフェンスとして活用しているという話を見たことがある。また、法人の方でソーラーシェアリングについて検討はしたけれども、費用対効果が見込めずに断念した人がいたので、そう言った方々に、税制面等の支援があると良い。(委員)
- ソーラーシェアリングについては、家畜を放している農地であれば取り組みやすいと思う反面、普通の農地だと収量が減った分の補填も考えないといけないだろうと思う。(委員)
- SDGs 学習の場に私も参加した。大人が勉強になった。この協議会や地球温暖化対策実行計画についても知らない人ばかりだったので、自治会の集まりなどで話をしていくと、興味を持つ人も出てくるかもしれない。(委員)
 - 他にも老人クラブなどの場も含めて、わかりやすく伝えていきたい。(議長)
 - PTA の活動でスケート靴のトレード会をやっている。こう言った子育て世代にリーチできる場もあるので、そこで高断熱住宅の話を広めるなどすると良いかもしれない(委員)
- 会議資料については、もう少し早くいただけるとありがたい。(委員)

6. 次回協議会について

事務局より、7月29日(火)10:00から次回の協議会を開催予定であることについて説明があった。

7. 閉会